

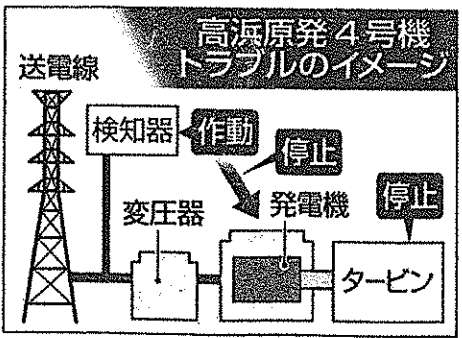
# 高浜4号停止過電流原因

## 営業運転来月以降に

関西電力高浜原発4号機 止した問題で、関電は1日、発  
 (加圧水型軽水炉、出力87万 電機と送電設備をつなぐ並列  
 送)の原子炉が機器の故障を 作業Ⅱ☆NEWSの言葉Ⅱを  
 知らせる警報が鳴って緊急停 行った瞬間、電圧差が生じ、送  
 電側から一時的に設定値を超  
 える電流が検知器に流れたの  
 が原因と明らかにした。今後、  
 設定値の妥当性などを詳しく

調べる。(2面に関連記事)  
 関電は同日、原子炉を冷えた状態に戻すため、1次冷却水の温度や圧力を下げる作業に入った。

関電は、原因と対策を原子力規制委員会に報告するまで再稼働はしない方針を表明しており、規制委も1日「再発防止策を了承するまで(関電が)再稼働させるのは難しい」との見方を示した。3月下旬を目標としていた営業運転は、4月以降にずれ込む公算が大きくなった。



ル稼働時の電流の30%以上に当たる電流が流れると警報が鳴り、発電機を自動停止させる設定としていた。電流値の記録を確認したところ、発電・送電操作時に瞬間的に32〜35%の電流が流れていた。周辺にある同様の機器は反応しなかった。

検知器は送電、発電両側の電流差を検出しているが、今回は発電機側の新設した検知器の試験が終わっておらず、送電側からのみの電流を検知するようにしていたという。検知器に故障は見つかっていない。会見した関電原子力事業本部の宮田賢司副事業本部長は「並列時に電流の変化があるのは想定内」と説明。「設定値の妥当性を含め調査していく」と話した。(牧野将寛)